

## 芸術鑑賞特集

今年は、「12人の恐れる男たち」という演劇の鑑賞をします。  
この物語は、1時間45分の上演時間で、一人の少年が父親殺しの容疑で裁かれる裁判劇です。

物語は12人の陪審員たちがその少年の有罪か無罪かを決めるために、集まるところから始まります。審議した結果が、11人の陪審員は有罪の評決を下していくが、ある1人の男が無罪を主張し、次第に無罪に傾いていきます。陪審員の抱えている葛藤をリアルに描き、見る人に深く考えさせる緊迫感がある演劇です。



|      |                                                             |
|------|-------------------------------------------------------------|
| 第1号  | 陪審員長の務めを果たそうと、個性豊かな陪審員たちに翻弄されながらも真面目に努力する。高校フットボールのコーチ。     |
| 第2号  | 気弱で、おとなしい善人。たいていの場合妥協的で、自分の主張を最後までし続けることはない。銀行員。            |
| 第3号  | 力強く、説得力のある主張をする人物。自分と違う意見に耳を貸さず独断的に振舞う傾向がある。メッセンジャー会社経営。    |
| 第4号  | 富と地位を持つ人生の勝者。事件への唯一の関心事は事実と論理の整合性だけである。感情的な論議を嫌う。株式ブローカー。   |
| 第5号  | スラムの出身であることに、ある種の強迫観念を持つ。権威や年長者に脅え、率直に意見を言えない。船員。           |
| 第6号  | 論理的な議論は苦手。頭の回転も良くないが、正直で純粋。ゆつくりだが、心に響く他人の言葉を受け入れる。ペンキ職人。    |
| 第7号  | 明るく熱く、熱意なしに素早く意見を言う。シニカルな言動の陰に、時代を生きた人間の姿が見える。セールのスマン。      |
| 第8号  | 社会に潜む、偏見や差別と闘う情熱を持つ。真実と正義を求める信念はCOMPASSION（共善）に基づく。建築家。     |
| 第9号  | 人生の敗者として暮らす老人。自由な生き方に憧れ、勇気を示すことが可能であった事を想う日々を送っている。無職。      |
| 第10号 | 他人にも自分にも、人生の生きたる価値を認めることが出来ず、誰に対しても、怒りつづける辛辣な男。偏見が強い。修理工場主。 |
| 第11号 | 一九四一年に米国、ヨーロッパからの避難民。故国での不正義に苦しんでいた。未だ残る外国語流りを恥じている。時計職人。   |
| 第12号 | 社会的で明るい広告マン。世論のパーセンテージの観点から人間を考え、多数が正義と察している。広告代理店勤務。       |



陪審員第6号  
岡田篤弥



陪審員第5号  
松並俊祐



陪審員第4号  
佐岡洋介



陪審員第3号  
星野子熊



陪審員第2号  
森 路敏



陪審員長  
脇 秀平



陪審員第7号



陪審員第8号



陪審員第9号



陪審員第10号



陪審員第11号



陪審員第12号

### 10月17日（木）の日程

午前 ⑤⑥⑦の授業（50分授業）

11:35 ~ 11:45 清掃（ゴミ捨てを中心に簡単に）

11:45 ~ 12:20 昼休み

12:20 ~ 12:30 SHR ⇒ 出発準備（教室）⇒ 生徒玄関へ

12:30 ~ 13:00 移動 3年 ⇒ 2年 ⇒ 1年の順 \*開場前

13:00 開場

13:20 ~ 13:25 着席完了・放送による諸注意

13:25 ~ 13:30 教頭挨拶

13:30 開演

15:20 終演

15:25 花束贈呈、お礼の言葉（後期生徒会長 20HR）

15:30 ~ 16:00 移動（保護者⇒3年⇒2年⇒1年⇒定時制の順）

16:00 学校到着

12人の陪審員が、どんな性格で、机のどこに座っているかを確認して、観劇したらより楽しむことができるよ。



# 特集

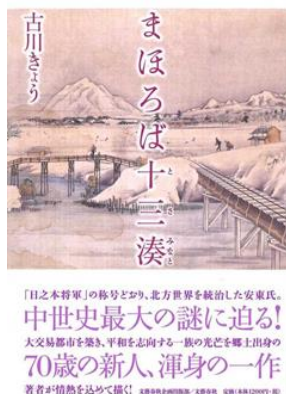
## 私たちのOB

## 作家 古川きょう 氏

中泊町生まれ。神奈川歯科大学を卒業し、横浜市に「こがわ歯科」を開業。

2007年に沖縄県多良間村立歯科診療所での勤務をはじめ、現在に至る。『リキのボナベ探検記』『遍路の果てに』『光る海』『まほろばの十三湊』などの著書がある。

今回は2つの作品を紹介します。



『まほろば十三湊』は、青森県五所川原市の飛び地である市浦にかつてあった交易都市「十三湊」を舞台にした物語です。

青森の自然や歴史がきれいに書かれていて、その時代にタイムスリップしたような気分になります。登場人物たちが、探検しながら謎を解いていくところが、ワクワクします。しかも、その登場人物たちが成長していく様子も見所です。最後まで飽きずに楽しめ、とくに歴史が好きな人にオススメの本です。



ある夫婦と家族になったマルチーズのモモコとの数年間の沖縄の島々での話です。モモコは夫婦と人間のように日本語で会話をしている感じがよく分かり、天真爛漫で感情がはっきりしていてとてもかわいらしく書かれています。

夫婦とモモコが島々で出会う人々や動物との関わりが優しく、思いやりに溢れていて心が豊かになります。

沖縄の島々で見られるツツジやテッポウユリ、ゲットウなどのたくさんの綺麗な花や島バナナやパパイヤ、ドラゴンフルーツなどのトロピカルフルーツといった植物、オオゴマダラという日本最大級の蝶やアジサシ、アカショウビ

ンなどの夏鳥といった四季を感じられることが詳細に説明されています。また時折出てくる俳句がその情景を彩ってより美しいものになっています。たまに出てくるモモコや動物たちの挿絵がかわいらしいです。この話は自然や動物が好きになると思います。自然や動物が好きな人やそうでない人でも是非読んでみてください。



合計4冊入荷しました。

これは、皆さんの先輩からの寄贈していただきました。(感謝)



新着本がまた入荷予定です。  
(予定は10月下旬)  
どんどん図書館を利用しよう。

